

夏期日本語教育報告

総 括

夏期日本語教育ディレクター
田中 和美

今年の夏期日本語教育（SCJ）は、昨年の震災の影響を受けての縮小開催を除き、近年では最小の人数であった。震災、原発の余波のみならず円高の影響も少なくなかったであろうと思われる。規模が小さいことはメリットもあり、81名の受講生は良く交流し、問題も起こることなく、全員が無事6週間のプログラムを修了することができた。

今年も SCJ を開催でき、成功裏に終わったことは、学内、学外の多くの方々のご支援がなければできないことであった。ここに心より御礼申し上げます。

1 講師陣

今年は、JLP からの教務主任及びディレクターも授業を持ち、JLP 専任講師の 1 名と外部からの講師 16 名を加え、計 19 名の講師陣であった。

2 クラス編成

昨年開講しなかった上級クラス C7 及び継承語系クラス C8 を含め、全部で 8 レベル開講した。C1 から C6 のうち、C4 のみ 2 セクションとした。

3 教室、講師室など

本館の西側 1 階の耐震工事が急遽実施されることになり、さらにオープンキャンパス関連の要請もあり、使用教室を昨年とは変更せざるを得なかった。節電のため本館 2 階 3 階の北側を主に使用したが、いくつかは南側の教室使用となった。昨年同様、文化プログラムラウンジは本館の 215、講師室は第 2 教育研究棟（ERB2）の JLP 非常勤講師室 2 部屋を当てた。今年の新たな試みとして、ERB2-130 の部屋を授業支援室とし、教務主任の指揮下、授業ヘルパー及び学生アルバイトの教務助手 2 名が機材の貸し出し、鍵の管理、印刷請負などの業務をこなした。JLP の ERB2-105 を教材作成室として使用し、印刷業務などはここで行った。本館との行き来が不要になり、ヘルパーと学生アルバイトが様々な状況にも対応してくれ、潤滑に運営は行われた。

4 カリキュラム

JLP の方針に基づき、形式を統一したコースシラバス、スケジュール、評価対象などを作成し、各コースヘッドに渡した。このように枠組みを定めることで、一定の水準を保つことができたと思われる。C7 と C8 は JLP の通常学期のシラバスは用いず、コースコーディネーターが教務主任及びディレクターと相談した上で工夫を凝らした。

5 文化プログラム

今年のプログラムは、相手方の都合で必ずしもうまくいかなかったが、週に 2 回イベ

ントを開催するように企画し、学外でのイベント4回のうち2回は金曜日に実行することができた。昨年同様、参加人数が限られているものには、希望者を募りくじ引きとし、問題なく運営できた。ただ、参加費用の集金に多少課題が残る。学生アルバイトの文化プログラム助手3名は、限られたリソースで学生の相手をよくやってくれた。今年はディレクターが文化プログラム主任を兼任し、実際に企画、運営、参加しながら文化プログラムのよりよい姿を探った。

6 宿舎

今年は檜寮を使用した。特に問題はなかったようだ。受講生を受け入れてくださるホストファミリーが14家族集まったことは、ありがたいことだった。残念ながら受講生1名が、途中でホームステイから寮に移った。

7 その他 看護師

昨年と同じ看護師に期間中常駐してもらえたのは、大変ありがたかった。熱中症が懸念であったが、体調を崩す受講生が昨年より少なかった。病院への付き添いが2回あったが、大事に至ることなく済んだ。

以上
2012年10月8日

教務報告

夏期日本語教育教務主任
尾崎 久美子

2012年度の夏期日本語教育は、小規模人数での開催となったが、大きな問題もなく終了した。以下に、期間中のスケジュールやコース編成等、簡単に報告する。

1. 期間中のスケジュール

7月3日(火)	午後	全体講師会 *コースコーディネーターはシラバスとスケジュールを提出 プレースメントテスト実施要領説明
7月4日(水)	午後	学生の登録・入寮 全体オリエンテーション
7月5日(木)	午前 午後	プレースメントテスト実施、C1授業開始 歓迎会、学生向けキャンパス・ツアー実施 プレースメントテスト採点及び判定会議
7月6日(金)	午前から	レベル判定結果発表、授業開始 *C1以外のコースでは、最初にインタビューを実施 *この日は講師全員が授業に入り、学生のコース移動等に対処 学生向けテキスト販売
7月9日(月)	午後 5:00までに	学生向けテキスト販売 学生のコースを確定 *コースコーディネーターは学生名簿と授業担当者スケジュールを提出
7月11日(水)	午後	全体講師会 *以降、毎週水曜日(7月18日を除く)の同時刻に全体講師会あり
7月18日(水)	午後	講師懇親会
8月15日(水)	午前 午後	授業最終日 歓送会
8月16日(木)	3:00までに	成績・報告書等 提出

2. コース担当講師と学生数

今年度から、新たに夏期日本語教育ディレクターと教務主任がコースコーディネーターとしてコース(C8およびC5)を担当した。この2名の担当授業コマ数は通常の講師より少ないため、この2コースについては、3名の講師が担当している。コース編成、講師の配置と学生数は以下の通りである。

コース	コーディネーター	ティーチングスタッフ	学生数
C1(初級1)	永富あゆみ	渡部萌子	10
C2(初級2)	貴志佳子	丸山理恵	10
C3(初級3)	平田泉	鈴木紗弓	11
C4(中級1)	成永淑	松本明子・助川愛・内藤由香	19

C5 (中級2)	尾崎久美子	石山治・増田恭子	12
C6 (中級3)	保坂明香	谷口かおり	6
C7 (上級)	畠山衛	川名恭子	5
C8	田中和美	安原義博・増田恭子	8
合計	教員：19名		学生：81名

* C4のみ2セクションのコース

* C8は継承語系の学生を対象としたコース

なお、この他、教務助手1名（学生アルバイト：山本つむぎ、林昌樹の2名が交替で勤務）と授業ヘルパー1名（シフト制で全9名が交替で勤務）が教務室（ERB2-130）にて教務関係の仕事の補佐（教材印刷、本館の鍵・視聴覚機器・パソコン・事務用品等の貸し出し、日本人学生会話ボランティアの手配、その他教員への連絡・対応等）を行なった。

3. 使用教科書

コース	使用教科書
C1 (初級1)	『ICUの日本語 Vol.1』
C2 (初級2)	『ICUの日本語 Vol.2』
C3 (初級3)	『ICUの日本語 Vol.3』
C4 (中級1)	『日本語中級 J301』（スリーエーネットワーク）
C5 (中級2)	『日本語中級 J501』（スリーエーネットワーク）
C6 (中級3)	『ニューアプローチ中上級日本語完成編』（日本語研究社）
C7 (上級)	指定教科書なし
C8	指定教科書なし

4. 授業時間

授業は月曜日から金曜日まで以下の時間帯で行なった。但し午後については、毎週水曜日に全体講師会を開催し、個別指導は水曜日以外の4日間で行なった。

1限	8:50-10:00
2限	10:10-11:20
3限	11:30-12:40

《昼休み》	

個別指導	13:40 - 14:50

5. 使用施設

授業は本館の2・3階のみで行ない、従来使用していた総合学習センター（ILC）の語学ラボ等は使用しなかった。また、昨年同様、教員室は第二教育研究棟（ERB2）の126・127の2室をあてたが、教務室（教務助手・授業ヘルパー控室）と教材作成室は昨年度と

異なり教員室近くの 130・105 が使用できたため、昨年度のような時間制限等の問題もなく、連絡や教材作成がスムーズにできた。

6. その他

前述したとおり、今回新たな試みとして、ディレクター・教務主任がコースコーディネーターとしてコースを担当した。これは ICU 日本語プログラム (JLP) の常勤教員がより多く関わることによって、夏期日本語教育において通常学期の日本語プログラムのコース内容や質を維持するというねらいがあったためであるが、今年度については、些末な問題はあったにせよ、このねらいはかなり達成されたと思われる。今後、同様の体制での運営を続けるならば、コース運営が軌道に乗る 2～3 週目頃までに大きな問題等が起こらないよう、入念な準備が必要となろう。

文化プログラム報告

文化プログラム主任

田中 和美

サマーコースにおける文化プログラムは、日本の人々とふれあい、日本文化を体験し、日本について学ぶ機会として参加者にとって非常に意義あるものと捉え、例年実施している。講師の方々、ICUのクラブ・サークル、文化プログラム助手、学生アルバイト、サマーコース事務室と、企画、準備、実施のそれぞれの段階で多くの方々の温かい支援を受け、初めて遂行できるものである。今年も大きな問題もなく無事終了できた。

近年、文化プログラムと授業とのバランスがうまくとれていないということを目にすることが多かった。文化プログラムへの参加により、宿題ができない、授業を欠席するという受講生がいる一方、勉強が大変だから文化プログラムに参加できないという受講生もいるようである。このような状況を少しでも打破するために、いくつか工夫してみた。まず、できるだけ催し物を分散し、企画は1週間に2つまでとした。その際、学内の催し物は火曜日、学外の催し物（防災館、坐禅、歌舞伎、ジブリ）は金曜日と固定するよう計画したのだが、先方の都合などもあり、そうもいかなかった。その上で、少しでも受講生が楽しんで文化プログラムに参加できるようにとの考えから、6月に文化プログラムのスケジュールを教師の方々に送り、クラスのスケジュールを立てるのに参考にしていただいた。

今年度の文化プログラムのスケジュールは97ページに記載した。今年初めて、立川にある防災館を訪問した。これは、東日本大震災の経験から、地震や火事についての知識があったほうが良いであろうということで、UCセンターとサマーコースが合同で行ったものである。また、恒例の歌舞伎鑑賞は、定員以上の申し込みがあったが、追加切符を購入することで希望した学生全員が参加できた。

文化プログラムラウンジ（CPラウンジ）は昨年と同様に本館の215号室に設け、文化プログラム学生助手が常駐し、昨年同様インターネット機能を利用しての催し物へのサインアップと抽選、参加者発表、集金の役目を果たした。このプロセスは、おおむねスムーズに行ったが、集金に関しては助手たちの新たなアイデアで一層万全の方策となった。本館2階、3階の中央スペースには充実した自動販売機がそろい、CPラウンジでの販売はおにぎりのみとしたが、好評であった。さらに、毎週水曜日の昼過ぎは、ICUの学生との会話パートナーの日、金曜日の昼過ぎはCPラウンジイベントの日と予定した。会話パートナーは、小規模であったが、参加した受講生たちには得ることが大きかったようである。金曜日のCPラウンジイベントとして、7月中には七夕祭り、折り紙を助手を中心として楽しんだ。サマーコースの受講生たちとICUの学生たちの交流の場を広げることは今後の課題である。

今年度の文化プログラムは、全体像をみるためにサマーコースのディレクターが文化プログラム主任も兼務し、いくつか新たな試みを行い、また今後への示唆を得た。ICUサマーコースの文化プログラムは、長年にわたり築き上げてきた成果であり、誇りを持ってこれからも育んでいかなければならない。

事 務 報 告

1. スタッフ

田 中 和 美	ディレクター・文化プログラム主任
尾 崎 久美子	教務主任
朝 倉 怜 子	日本語教育研究センター事務室業務担当
篠 原 将 成	オフィス・アシスタント (研究所助手)
ジョーンズ テニール	オフィス・アシスタント (研究所助手)
林 昌 樹	教務助手 (学生アルバイト)
山 本 つむぎ	教務助手 (学生アルバイト)
他、授業ヘルパー	9名がシフト制で1日1名勤務
徳 田 有 矢	文化プログラム助手 (学生アルバイト)
入内嶋 礼 子	文化プログラム助手 (学生アルバイト)
小 林 翠	文化プログラム助手 (学生アルバイト)

2. 講師名簿 (所属は 2012 年 4 月 1 日現在)

教務主任	尾崎 久美子	国際基督教大学	日本語教育課程	講師	課程准教授
C1	永 富 あゆみ 渡 部 萌 子	Brown University University of California, Davis	Visiting Lecturer in Japanese Instructor		
C2	貴 志 佳 子 丸 山 理 恵	Case Western Reserve University アリゾナ大学	Lecturer in Japanese 日本語学博士課程大学院生		
C3	平 田 泉 鈴 木 紗 弓	国際基督教大学 Kenyon College	日本語教育課程 Teaching Fellow	講師	課程准教授
C4	成 永 淑 松 本 明 子 助 川 愛 内 藤 由 香	国際基督教大学 University of St. Thomas Oberlin College University of Kansas	日本語教育課程 Japanese Instructor Lecturer in Japanese Lecturer	非常勤講師	
C5	尾崎 久美子 石 山 治 増 田 恭 子	国際基督教大学 Soka University of America Georgia Institute of Technology	日本語教育課程 Assistant Professor Associate Professor	講師	課程准教授 (C5 と C8 を担当)
C6	保 坂 明 香 谷 口 かおり	国際基督教大学 Imperial College London, King's College London	日本語教育課程 Japanese Lecturer	非常勤講師	
C7	畠 山 衛 川 名 恭 子	Carnegie Mellon University 早稲田大学日本語教育研究センター	Graduate Teaching Assistant インストラクター (非常勤)		
C8	田 中 和 美 安 原 義 博 増 田 恭 子	国際基督教大学 Carnegie Mellon University Georgia Institute of Technology	日本語教育課程 Assistant Teaching Professor Associate Professor	主任 教授	(C5 と C8 を担当)

3. 2012 年 カルチャー プログラム カレンダー

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
		7/4 Registration SCJ Course Orientation	7/5 Placement Test, Campus Orientation Welcome Lunch	7/6 Classes Start CP Lounge <Tanabata>
7/9	7/10 Safety Center	7/11	7/12 Japanese Taiko Drums	7/13 CP Lounge <Origami>
7/16 National Holiday Classes as usual	7/17 Japanese Dance	7/18	7/19	7/20 CP Lounge <Calligraphy> Kabuki
7/23	7/24 Tea Ceremony	7/25 Zen Meditation	7/26	7/27 CP Lounge
7/30 Zori Making I	7/31 Zori Making II	8/1	8/2	8/3 CP Lounge Ghibli Museum
8/6	8/7	8/8	8/9	8/10 CP Lounge
8/13	8/14	8/15 Classes end Farewell Party	8/16 On-Campus Dorm Check- Out	

4. 学生に関する統計

A. 応募者内訳

応募者	130
合格者*	110
不合格者	20

* 合格者	110
受講辞退者	29
受講者	81

B. 受講者内訳

① 身分別

	男	女	計
一般学生	19	41	60
教育交流プログラム学生*	13	8	21
合計	32	49	81

* 〈内訳〉 University of California	6	4	10
University of Pennsylvania	3	3	6
Pomona College	4	1	5
合計	13	8	21

② 宿舎別

	男	女	計
自分で用意	4	5	9
ICU が用意*	28	44	72

* 〈内訳〉 学生会館	1	7	8
檜寮	25	26	51
ホームステイ	2	11	13
合計	28	44	72

③ 国籍

BAHRAIN	1	GREECE/RUSSIA	1	TAIWAN	1
BRAZIL	1	ISRAEL	1	TAIWAN/ AUSTRALIA	1
CANADA	4	JAPAN	5	UK	3
CHINA	14	KOREA	3	USA	38
GERMANY/SPAIN	1	SINGAPORE	4	USA/JAPAN	3

Total 81

5. ホストファミリー (家族数)

杉並区	3
三鷹市	5
府中市	1
小金井市	3
八王子市	1
合計	13

